

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間通して縦割り活動(縦割りグループ遊び, 縦割り掃除)を実施し, 異学年との交流を通して相手を思いやる心の育成につながった。有明小学校でも、友達との関係づくりに取り組んでいきたい。</li> <li>進んであいさつする児童や元気に外遊びをする児童が増えた。今後も笑顔と活気あふれる学校になるよう取り組んでいきたい。</li> <li>児童が主体的に地域と関わっていくことができるように場と機会を保障し, それぞれの活動のねらいを意識した取り組みを実践していきたい。</li> </ul>
------------------	---

2 学校教育目標	<b>互いのよさを認め合い、共に伸びる子どもの育成</b>
----------	-------------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>進んで学び続ける子ども ①話をしっかり聞く ②めあてをもって取り組む ③自分の考えをもち伝える ④進んで本を読む</li> <li>思いやりをもち、他人とつながる子ども ①気持ちのよいあいさつや返事をする ②自分や友だちのよさを認める ③友達と助け合い協力する ④「ありがとう」「ごめんね」が言える</li> <li>なりたい自分を見つけ、挑戦する子ども ①健康安全に気をつけ、命を大切にす ②失敗や困難にくじけない ③最後まで根気強く取り組む ④ふるさとを大切に思う ⑤自分のことは自分でできる</li> </ul>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	○基礎基本の定着	○単元末テストの知識・技能において、全学年、正答率80%を上回る。	・授業やスキルタイム、家庭学習などで、基本・基本の習熟の場を設定する。		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自分や友だちのよいところを見つけている」「思いやりの心をもって、協力することができている」という質問に対して「できる」と回答する児童を80%以上にす。	・学校行事、縦割り活動、委員会活動等の中で、自己理解や他者への「思いやり」を意識した取組を行う。 ・人権・同和教育や平和教育、道徳教育、命の教育を計画的に実践する。						
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・職員連絡会で、気になる児童とその対策について話し合う機会を設け、いじめの未然防止・早期発見・早期対応・再発防止に努める。 ・心のアンケート等を定期的に実施し、児童の様子を把握し、いじめの早期発見・早期対応に努め、情報共有を行う。 ・教育相談週間を設定して、児童の理解を深める。						
●健康・体づくり	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●◎「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・日頃の帰りの会やお便りなどで、声掛けをしたりよいところを伝えたりする。 ・行事や学習において、活動を通して達成したいめあてを児童と共に決定する。活動後には、めあて達成に近づいているかどうかの振り返りを行い、児童の成長や頑張りを褒めて認める場を設ける。						
	●「運動習慣の改善や定着」	○積極的に体を動かそうとしている児童を70%以上にす。 ○「健康安全に気をつけ、命を大切にす」と答える児童を70%以上にす。	・スポーツ祭りや、マラソン週間等の体を動かすイベントを企画し、児童が運動する機会を設定する。 ・学期ごとの生活目標と関連させた指導を行う。						
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日	・定時退勤日を毎週金曜日、第3水曜日と明確に設定し、意識して実践できるような取組を行う。 ・学期毎に学校運営や業務に関する振り返りを行い、業務の改善、課題の早期解決に努める。						
●特別支援教育の充実	○特別な支援を要する児童一人一人に合った合理的配慮を含む具体的な支援の充実	○年度末のアンケートで、「児童の特性に応じた指導を行っている」と答えた教員80パーセント以上。	・個別的教育支援計画・指導計画を作成する意義を伝え、具体的な書き方の例を提示し、必要に応じてアドバイスを行う。 ・講師招聘を行い、合理的配慮を含む具体的な支援について学ぶ機会を設定する。						

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				○あいさつレベルアップ	○行動の具体化(質の向上) ・「先手あいさつ」の励行 ・「目を見て」「笑顔で」「元気に」あいさつ	○自分からすすんで気持ちのよいあいさつができた振り返る児童の割合80%以上	・具体的なあいさつのレベル「自分からすすんで」「笑顔で」「元気な声で」を児童に示し、意識化を図る。生活アンケートにあいさつができているか振り返る項目を入れ、実態把握に努める。さわやかなあいさつができている児童の紹介を全校朝会等でおこなう。		

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
--------------------	---